

まさか！の時の「金」

金価格上昇

足元で金価格が上昇しています。指標となるニューヨーク先物相場は、2016年11月以来、9ヵ月半ぶりに1オンスあたり1,300ドルを越えて上昇しています。金価格が上昇した要因は大きく分けて2つ考えられます。

①リスク回避

金は、リスクが高まると資金の逃避先として買われる傾向があります。8月29日北朝鮮が日本の上空を通過する弾道ミサイルを発射、その後6回目の核実験を行うなど地政学リスクが高まりました。加えて、トランプ政権の混乱で米国政治リスクが高まりリスク回避の動きとなりました。

②米国利上げ観測後退

先日米国で行われたジャクソンホール会合で、FRBのイエレン議長が利上げに言及せず市場は利上げ観測が後退したと判断しました。利上げは金利収入の魅力が高まるため、米国の利上げ観測が後退したことで金利のつかない金のデメリットが弱まり資金が流入しました。

金の魅力は主に3つ

①世界的に普遍的な価値が認められている「金」

金の魅力は、そのもの自体に価値を持っていることです。例えば、債券や株式は企業や国の信用を裏付けとして発行されており、その発行体が破綻した場合には無価値になってしまうリスクがあります。一方、発行元がない実物資産の金は、誰の信用も必要としません。金はその長い歴史のなかで一度も無価値になったことがありません。

②有事の金

世界的に地政学、マーケットリスクなどが高まるとより金を買われる傾向があります。古くはオイルショックや中東戦争、最近ではITバブル崩壊やリーマン・ショック、チャイナ・ショックなど金融市場が大きく混乱した局面でも金価格は上昇しています。そのため金は有事の金と呼ばれます。

③希少性

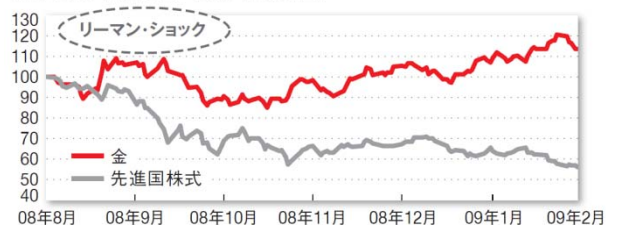
金の推定埋蔵量は約5万7,000トン、年間生産量は約3,100トン(リサイクル除く)です。このペースで掘り続けた場合18年で枯渇する可能性があり希少性が高まると考えられます。

出所:U.S. Geological Survey (USGS)、World Gold Councilのデータを使用しピクテ投信投資顧問作成
※データは2016年

分散投資の一つとして

金は、他の資産と異なる値動きをする傾向(低相関)にあり、リーマン・ショックのような世界的な金融危機時には強みを発揮することが期待されます。実際リーマン・ショック時には先進国株式が下落するなか、金価格は上昇しています。資産全体を考えた場合、値動きの異なる資産を一部に組入れることで分散投資効果が期待できます。まさか！の時に備えて、今後は分散投資の一つとして、株式や債券とは異なる値動きをする資産の組入れも必要かもしれませんね。

リーマン・ショック時の金と先進国株式のパフォーマンス推移
(米ドルベース、日次、2008年8月29日=100として指数化、
期間:2008年8月29日~2009年2月27日)



※金:COMEX金先物、先進国株式:MSCI世界株価指数
出所:ブルームバーグのデータを使用しピクテ投信投資顧問作成

※MSCI指数は、MSCIが開発した指数です。同指数に対する著作権、知的所有権その他一切の権利はMSCIに帰属します。またMSCIは、同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。

- 当資料はピクテ投信投資顧問株式会社が作成した資料であり、特定の商品の勧誘や売買の推奨等を目的としたものではなく、また特定の銘柄および市場の推奨やその価格動向を示唆するものではありません。
- 運用による損益は、すべて投資者の皆さまに帰属します。
- 当資料に記載された過去の実績は、将来の成果等を示唆あるいは保証するものではありません。
- 当資料は信頼できると考えられる情報に基づき作成されていますが、その正確性、完全性、使用目的への適合性を保証するものではありません。
- 当資料中に示された情報等は、作成日現在のものであり、事前の連絡なしに変更されることがあります。
- 投資信託は預金等ではなく元本および利回りの保証はありません。
- 投資信託は、預金や保険契約と異なり、預金保険機構・保険契約者保護機構の対象ではありません。
- 登録金融機関でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の対象とはなりません。
- 当資料に掲載されているいかなる情報も、法務、会計、税務、経営、投資その他に係る助言を構成するものではありません。